

能登半島地震から

見えた課題

市長 米本 弥一郎



能登半島地震の発生から1か月と
なります。災害により亡くなられた
方々と被災された皆さまに、謹んで
お悔やみとお見舞いを申し上げます
とともに、1日も早い復旧・復興を
心よりお祈り申し上げます。

市では、国や県からの要請に応じ
て、被災地への職員派遣や、被災さ
れた方を受け入れる公営住宅の提供
を行っています。引き続き関係機関
と連携を取りながら、支援を行って
いきます。

新年の仕事始め式では「被災地に
思いを馳せ、市民の生活と安寧^{あんねい}な
日々を守ることが、私たちの職務・
責任であることを再認識して精励す
るように」と職員に伝えました。

被災地では、今なお多くの方々が
避難所に身を寄せており、生活環境
の悪化による「災害関連死」への対
策などが課題となっています。

冬の避難所では、水などの物資や
医療体制の確保とともに「TKB+
W」、トイレ、キッチン(温かい食
事)、ベッドとウォーム(暖房)の整
備が必要不可欠とされています。市
では、災害協定を締結している約50
の民間企業・団体の協力を得ながら、
避難生活で想定されるさまざまな状
況に備えていきたいと思っています。

消防出初式では、消防職員や消防
団員の「自分たちの故郷は自分たち
で守る」という強い思いが伝わって
きました。災害発生時の初動対応の
検証や自主防災組織の結成促進など、
過去の災害での教訓や経験を生かし、
防災対策を講じていくことの重要性
を改めて感じています。2月25日に
は津波避難訓練を実施します。地震
や津波から自分自身や家族の生命を
守るために、市民の皆さまの積極的
な参加をお願いします。